

第22回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日 時 昭和54年12月19日（水）

午後3時～4時

2. 場 所 宇宙開発委員会会議室

3. 議 題 (1) 昭和55年度における科学衛星打上げ用ロケット発射台等施設に関する経費の見積りについて

(2) 第4号科学衛星「はくちよう」の観測結果について

説明者

東京大学宇宙航空研究所教授 小 田 稔

4. 資 料

委22-1 第20回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）

委22-2 昭和55年度における科学衛星打上げ用ロケット発射台等施設に関する経費の見積りについて（案）

委22-3 第4号科学衛星「はくちよう」観測速報

委 22-1

第 21 回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 要 旨（案）

1. 日 時 昭和 54 年 12 月 12 日（水）
午後 2 時～4 時
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 (1) L-4SC ロケット 5 号機の打上げ結果の
評価について（報告）
(2) 第一次材料実験テーマ選定特別部会の設置
について
(3) 昭和 54 年度 1～2 月期人工衛星打上げ計
画について
4. 資 料
委 21-1 第 20 回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
委 21-2 L-4SC ロケット 5 号機の打上げ結果の評価に
ついて（報告）
委 21-3 第一次材料実験テーマ選定特別部会の設置につい
て（案）
委 21-4 第一次材料実験テーマ選定特別部会構成員（案）
委 21-5 昭和 54 年度第 2 次観測ロケット実験計画概要（案）
SES ノート K-№ 591
委 21-6 M-3S-1 号機の実験 SES ノート K-№ 592
委 21-7 実験用静止通信衛星（ECS-b）打上げ及び追
跡管制計画書

委 21-8 実験用静止通信衛星（ECS）実験基本計画書

参考配布 第一次材料実験テーマ応募概況

昭和 54 年度 1、2 月期ロケット打上げ計画一覧表

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理

“ 委員

“ “

“ “

吉 識 雅 夫

山 内 正 男

八 藤 東 禮

斎 藤 成 文

説明者

第四部会長

東京大学宇宙航空研究所教授

“ “ “

宇宙開発事業団副理事長

“ 理事

“ 打上管制部長

郵政省電波監理局宇宙通信開発課長

“ 電波研究所鹿島支所長

関係省庁職員等

科学技術庁研究調整局長

“ 長官官房審議官

文部省学術国際局審議官

通商産業省機械情報産業局審議官

運輸省大臣官房審議官

“ 気象庁総務部長

佐 貫 亦 男

秋 葉 録 二 郎

東 口 実

鈴 木 春 夫

平 井 正 一

長 島 利 正

三 浦 信

生 島 広三郎

勝 谷 保

神 津 信 男

大 崎 仁

（代理：池之上）

杉 山 和 男

（代理：吉田）

西 村 康 雄

（代理：富田）

相 良 英 明

（代理：山中）

郵政省電波監理局審議官

建設省大臣官房技術参事官

郵政省電波研究所

東京大学宇宙航空研究所

宇宙開発事業団システム計画部

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

” ” 宇宙国際課長

” ” 宇宙開発課長

嶋 光 一 郎

(代理：九里)

高 秀 秀 信

(代理：土肥)

林 理三雄

福 島 玉 男

炭 竜 豊 治

佐々木 寿 康

佐 藤 允 克

鈴 木 晃

他

6. 議事要旨

(1) 前回議事要旨

第20回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨案が確認された。

(2) L-4S C ロケット5号機の打上げ結果の評価について

佐貫亦男第四部会長より、資料委21-2に基づき説明が行われたのち、第四部会報告書が了承された。

(3) 第一次材料実験テーマ選定特別部会の設置について

事務局より、資料委21-3及び4に基づき説明が行われ、以下の質疑応答ののち特別部会の設置並びに審議付託が決定された。また、構成員についても原案どおり了承された。

八藤：宇宙開発事業団のスペースシャトル利用委員会の活動状況はどうか。

事務局：宇宙開発事業団の委員会には、実験装置の搭載方法など、

技術的な問題を詰めてもらう予定であるが、すでに数回開かれている。

(3) 昭和54年度1、2月期人工衛星打上げ計画について

東京大学宇宙航空研究所の秋葉録二郎教授及び東口実教授より、資料委21-5及び6に基づき説明が行われ、東京大学の打上げ計画が了承された。

こののち、宇宙開発事業団の鈴木春夫 副理事長、平井正一 理事及び長島利正 打上管制部長より、資料委21-7に基づき説明が行われ、以下の質疑応答ののち、宇宙開発事業団の打上げ計画が了承された。

さらに、郵政省電波監理局の三浦信 宇宙通信開発課長及び郵政省電波研究所の生島広三郎 鹿島支所長より、資料委21-8に基づき説明が行われた。

山内：第三段切離し時刻を前回よりさらに3.5秒遅らせることによつて、ヨーウエイトが前回のように不具合を起こしたとしても第三段と衛星の衝突は避けられるのか。

鈴木：前回と同様に推移すれば計算上、衝突はしない。しかし、ヨーウエイトが作動しなかつた場合、第三段の横方向速度にはばらつきがあり、あてにはできない。ただ、衝突する確率が前回より小さくなつたということはある。

吉識：去る12月6日米国東部射場から、デルタロケット150号機によつて打ちあげられたRCA/SATCOM-Cの不具合は、「あやめ」の場合と状況が似ているようだが、どう考えるか。

鈴木：我々のNロケット6号機のシステムとヨーウエイトの型式が若干違うこと、また米国は不具合の原因が衛星にあると判断していることにより、我々の打上げ計画に影響はないと考える。しかし、今後米国の事故につき十分調査し、必要があれば対策を講ずることとしたい。

昭和55年度における科学衛星打上げ用ロケット発射台等
施設に関する経費の見積りについて（案）

昭和54年12月19日
宇宙開発委員会
決 定

昭和55年度における宇宙開発関係経費の見積りのうち、文部省から要望のあつた科学衛星打上げ用ロケット発射台等施設に関する経費の見積りは、次のとおりである。

1. 事業の概要

科学衛星を引き続き打ち上げるため、その打上げ用ロケット発射台等施設の整備を進める。

2. 事業に必要な経費

昭和55年度において1.の事業を行うため必要な経費は、別表のとおりである。

別 表

（単位：千円）

省庁	担当 機関	事 項	昭和54年 度予算額	昭和55年度 経 費	要 旨
文 部 省	東京宇宙航空研究所	施設整備費 大型特別機械 整備費	0	⑤ 3,128,200 625,640	科学衛星打上げ用ロ ケット発射台等施設 ⑤ 3,128,200 625,640